

平成29年1月18日

静岡県歯科衛生士会御中

静岡市静岡歯科医師会会長 是永俊晴  
同 学術部部长 多田祐介

## 第2回学術講演会のお知らせ

日頃は本会活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。  
さて、平成28年度第2回学術講演会を下記のとおり開催いたします。  
今回は、講演を通して HIV 感染症は決して特別な病気ではなく、糖尿病や歯周病のように慢性疾患の一つということを理解してもらい、医療従事者と HIV 陽性患者が直接触れ合う第一歩として行いたいと思っております。  
皆様お誘いあわせの上、ぜひご出席をよろしくお願いいたします。

記

日時：平成29年4月5日（水）19：00～21：00  
場所：静岡県歯科医師会館 5階501大会議室  
講師：日本 HIV 陽性者ネットワークジャンププラス  
（今回、講師のお名前は非公表とさせていただきます。）  
演題：「我々を苦しめている差別や偏見は、  
実は医療の世界から社会へ広がっている」

\* 葉山珈琲様及び会館裏の駐車場には駐車しないようにお願いします。  
\* 聴講ご希望の先生は3月27日（月）までに本会事務局宛にご連絡ください。

申し込み先：静岡市静岡歯科医師会事務局 FAX：285-8916

**4月5日（水） 第2回 学術講演会 に参加します**

所属団体名 \_\_\_\_\_

参加者名 \_\_\_\_\_

## 【今回の講演目的】

学術部の理事に就任して、中部地区地域エイズ医療対策連絡会という会合に参加することになったが、その際、拠点病院の医師や行政から歯科診療受け入れネットワークはどうなっているのか？と質問を受けた。第2回目の参加時も同様であった。従来、歯科医師会のスタンスとしては、どの歯科医院でも受け入れ可能と答えていたにもかかわらずである。

なぜ、ネットワークを希望しているのかを聞くと、HIV陽性患者が歯科医院にて告知をすると、診療拒否や露骨に嫌な顔をされたり、予約時間を制限されるそうである。

現状のままでは、高知県の事例\*のように、門外漢（とくにメディア）にしたり顔で非難されることは明らかである。そのため、私たち歯科医療従事者（スタッフを含む）は正確な知識をもち、決して診療拒否をするような愚行を静岡市では起こしてはならない。かといって正義感から今回の講演会を開催したわけではない。マイノリティー優先が行き過ぎると、トランプ現象のように大きなブーメランとなって逆に差別が拡大するのは目に見えているからである。

では、我々歯科診療における HIV 陽性者受け入れ困難の理由を挙げてみる。

1.風評被害のリスク 2.スタッフの理解が得られない 3.血液・体液曝露時の対応  
4.医療コストの増加 5.設備が不十分 がある。そのため、今回は 2.スタッフの理解が得られないことに焦点を挙げて講演をお願いした。

最終目的は全ての歯科医院で診療を受け入れることであるが、直近の目的として静岡市で HIV 診療受け入れネットワークを形成することである。今回は病気について知る講演ではなく、実際の HIV 陽性患者と我々医療者が直接触れ合う第一歩として開催する。偏見は、無知と無理解からくるものである。

## 【HIV 陽性患者からの要望】



残念ながらいまだに、偏見や差別に苦しめられることが多い。

我々を苦しめているこの差別や偏見は、実は医療の世界から社会へ広がっているのだということこそ是非認識して欲しい。相次ぐ診療拒否、大きな病院でさえも診てくれない場合がある→大きな病院でも診れないような怖い病気なのか？→一般の人に偏見が広がっていく。それならばいっそ告知せずに歯科を受診してしまう\*2。ただ、なにかあったらと思うと心配である。是非理解ある歯科医院のネットワークを作成してもらいたい。

\* 高知県の事例 2014年5月 HIV感染を理由に診療拒否したところ、おおいにバッシングされ、高知県の HIV 陽性患者受け入れネットワーク作成の転機となった記事

\* 告知しない受診率 79.7%が告知しないで歯科受診をしたという報告